

ちばの地域福祉

中核地域生活支援センターにおける個別支援と戸別支援

中核地域生活支援センター さんぶエリアネット
センター長 吉井稔

中核地域生活支援センター(以下、中核センター)の支援は、対象者を限定しないことが大きな特徴であり、役割も関わり方も、カメレオンのように一つ一つのケースによって変わります。

例えば、引きこもり者への支援に携わる際、毎週通いこんで本人との信頼関係を築いたり、当事者の親の悩みや愚痴をひたすら聴いて、支援者のストレスのガス抜きをするなんてこともあります。

私は、4年前に中核センターすけっとの元所長、城所文恭さんに教わった話があります。

『「個別支援」は「戸別支援」。支援する人は課題のある当事者だけでなく、それに携わる家族も含めて一戸丸ごと支援しよう』という言葉をかけてもらいました。正確に言えば、「戸別支援」という日本語はないですが、私にはとてもしっかりと心に当てはまったのです。当事者と家族の区別をせず、一つの集合体を丸ごと支援することこそが、中核センターに求められている役割なのだと解釈しました。どの分野でも、当事者とその家族への支援の両方が求められていますが、一家丸ごとを対象として支援できる事業はそう多くありません。

「包括支援」、「総合相談」、「基幹相談」「なんでも相談」など、児童分野、障害分野、高齢分野にも同義の事業がいくつもあります。地域の社会資源が増え、支援対象の範囲が広がることで、制度の狭間が狭まり、今まで地域で埋もれていた人への支援が充実してきたと考えられ、お互いの分野を共有、連携出来ると良いと思います。しかし、逆に、これらが各分野のみしか対象としないと、かえって溝は深まってしまいます。

また、相談者の視点で考えれば、地域に「総合相談事業や包括的事業」、各分野の相談機関が数多くあると、かえってどこに、何を相談したらよいかわからなくなってしまい、不利益を生じさせてしまう危険性も同時に感じています。

- ・「なんでも相談」＝「なにもしてくれない相談」となっていないか
- ・新たな制度の狭間ができていないか

このようなことを、地域の支援機関として、中核センターも相談支援機関の一員として考えていかなければいけない課題だと感じています。

願わくば、「包括・総合・基幹・なんでも」相談事業が、お互い繋がり合い、実質上の「狭間のない支援体制」を築いていきたいと思います。

ちから ちばの福祉力・社会資源

NPO 法人 KHJ 千葉県なの花会の紹介

理事長 藤江 幹子

なの花会はひきこもり、不登校、ニートの家族会でKHJ 全国ひきこもり家族会連合会の千葉支部です。現在全国で63か所あり1県に1～3か所あります。Kは家族 Hはひきこもり JはJAPANの略で、「ひきこもり」は日本が先進国で世界共通語になっているところから「J」があります。

16年前に埼玉の故奥山氏が行政の窓口にひきこもりの息子さんの相談に行ったところ、期待していたことが何も得られず、それならば人に頼るのではなく自分達親が立ち上がろうとって始めました。年に1回全国大会があり今年山形県米沢市で開催しました。国や行政に働きかけ、ひきこもり等の啓発をしながら理解と福祉や制度の整備に向けて働きかけています。



千葉県なの花会は発足して13年目になります。それぞれの会で活動は違って、私たちの会は「月例会」・「学習会」・「若者の居場所」の3つの大きな活動と「フリーマーケット」、「親父の会」、「パソコン講座」等を毎月実施しています。親がひきこもり理解のための勉強をして価値観を広げ“親が変われば子が変わる”を目指しています。

年一回の周年行事もありますが、全国 KHJ と同様に行政や報道関係に働きかけ広く周知されることで、一般社会への理解と孤立した家族や本人に声が届くことを願いながら実施しています。

13年やってきて親だけでは限界があると感じています。今までも中核地域生活支援センターさんには力をお借りしました。家族が様々な問題を抱え心が複雑骨折をしている家や、子が50代、親が80代に差し掛かり、今なおひきこもっている状況が続いている50・80問題があり親子の高齢化が進んでいます。これからはますます第3者の力が必然になってきます。



親も子も社会から距離ができていて人や社会と繋がることが難しくなっていますが、周りの方の温かいまなざしが家族を救いひきこもりの子を救っていく大きな力、大きな道筋になっていくと信じています。様々な機関や方々との連携を期待しています。特にオールマイティーの中核地域生活支援センターさんには今まで以上に必要とする方が多いと思います。今後ともよろしくお願い致します。

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

地域のふれあい・交流の場づくり

青葉台小学校区小域福祉ネットワーク

私達は、安心して暮らせる・お互いに支え助け合う街づくりを目指して活動を行っています。その柱の一つが青葉台ふれあいサロン（以下、ふれあいサロン）の活動です。

ふれあいサロンは、市原市地域福祉活動拠点整備モデル事業（H21～25）として開設し、7年目を迎えています。皆が気軽に集い、楽しい雰囲気の中で交流出来るようカフェコーナーを設置。趣味を活かした作品の展示や演奏会など、地域の方々と力を合わせた場づくりも行なってきました。日祭日や年末年始を除く毎日（10時～16時）開館し、1日平均28名、月約700名の方が利用されています。（28年度上期実績）

運営には、40名のボランティアの方が参加されています。

「家に居るよりふれあいサロンに居る方が長いくらい。一人暮らしで引きこもってしまいがちだし、何より寂しい。サロンで皆と話して元気を貰っています。」といった利用される方の声を大切にし、また励まされもして憩える環境となるよう工夫を重ねています。

一方、開設初期から実施している健康教室や高齢者健康体操などに加えて、昨年末から、市原市が推進している転倒や寝たきり防止の「いいあんばい体操・筋金近トレ編」も多く参加を得て始めました。これらは、介護保険制度改正に伴い地域で主体的な取り組みを要することの一つでもあり、保健・福祉の啓蒙や向上の場として役割の一端を担うよう、力を置いた取り組みをしています。

現状は、高齢者が利用の中心です。世代を超えた交流の場づくりや自主事業財源の拡大（運営基盤強化）など、まだ課題は沢山あります。利用される方のアイデアも織り込みながら、更に魅力あるふれあいサロンとしていくため努力を続け、同じ

地域に住むお互いが、互いのことを知って笑顔が見られる、そういう関係づくりの場の一つにしていきたいと思っています。



①演奏会



②健康教室



③健康体操



④作品展示



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

「広がれ、こども食堂の輪！ 全国ツアーinちば」

- ◆日時 平成29年1月15日(日) 10:00～16:00
- ◆会場 千葉市文化センター アートホール(千葉市中央区中央2-5-1)
- ◆内容

基調講演(10:15～10:45)

「広がれ、こども食堂の輪！」

講師 栗林 知絵子さん(NPO 法人豊島 WAKUWAKU ネットワーク理事長)

パネルディスカッション(10:45～11:50)

「知って！ 来て！ こども食堂」

コーディネーター 高橋 亮さん(こがねはら子ども食堂代表)

パネリスト 吉岡 秀記さん(学童保育凜童舎)

有馬 房江さん(こがねはら子ども食堂 よっけ塾)

金田 由希さん(千葉市子ども食堂ネットワーク)

田代 和美さん(NPO 法人ほっとすぺーす・つき)

渡邊 裕美さん(市川こども食堂)

リレートーク(13:10～14:30)

「つないでいこう！ 子どもたちのいまと未来」

コーディネーター 渋沢 茂(千葉県社会福祉士会会長)

発表者 山崎 佳世さん(学童保育凜童舎)

田中 秀幸さん(元多古町立多古第二小学校校長)

安井 飛鳥さん(法律事務所くらふと弁護士)

高橋 克己さん(生活クラブ風の村はぐくみの杜君津)

大戸 優子さん(千葉県生活困窮者自立支援実務者ネットワーク会長)

菊地 謙さん(フードバンクちば代表)

まとめのセッション(14:45～15:45)

「もっと広がれ、こども食堂の輪！」

講師 川鍋 慎一さん(厚生労働省雇用均等・児童家庭局 家庭福祉課長)

【主催】NPO 法人ちばこどもおうえんだん・一般社団法人千葉県社会福祉士会
・社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

【参加費】無料

【問合せ】☎043-245-1102 千葉県社会福祉協議会地域福祉推進室(二枝・川上)

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：ひだまり(安房圏域) 館山市山本 1155

TEL 0470-28-5667 FAX 0470-28-5668

編集：長生ひなた(長生圏域) 茂原市長尾 2694

TEL 0475-22-7859 FAX 0475-22-7844

※内容についてのお問い合わせは、長生ひなた(担当：渋沢)までお願いします。